

神山神社だより

平成30年10月
22号

■はじめに

平成三十年も未曾有の多くの災害に見舞われております。雪害・火山・大雨による土砂浸水災害・台風竜巻による風害・地震による海山津波災害、土砂災害と毎月のように日本の各地で起きていて新聞、テレビで放映されない日はありません。近々では台風二十一号、北海道地震が発生しており、多くの住民が避難を余儀なくされ過酷な状況にあり、気の毒としか言いようがありません。一日も早い復興をお祈りします。

台風二十一号についてはこの地方にも少なからず爪あとを残しています。倒木で道路が遮断されたところや川の危険水位により避難準備された方等、心配が尽きませんでした。

神山神社でも境内の枝木が風により道をふさぐほど折れ、また天神社・洲原社・稲荷社の屋根瓦が二十枚ほど枝木で割れ吹き飛びましたが総代役員の方に「足労願い手早く片づけていただきませう。しかし、瓦破損により屋根の修理をする必要となった為、業者をお願いする事となりましたのでお知らせします。

古来、自然災害は科学では証明できない為、神様の御態として畏怖されています。神に祈りを捧げ、神の怒りに触れないようお祭りして一年を過ごすことが当たり前のように行われたわけです。現代では科学的に解明されるものいつ何時起こるかもしれない災害に備えることしか出来ません。いざ災害が発生したときには行政の支援、ボランティアの支援、住民同士の助け合いが復興の糧となっております。特に住民同士が協力し合い助け合う気持ち第一であり、日頃から住民同士の繋がり、絆があるからこそ出来ることだと思います。

■夏祭り

暑いお祭りが無事終わりました。福岡区では高の巢八幡神社例大祭・八布施神社例大祭・神山神社例大祭・菅原神社例大祭の夏祭りが七月にありました。大変ご苦勞様でした。このような暑い時期に祭りがあるのは中津川市内では九社ありますがその内の四社がこの福岡区です。なぜか不思議な気がします。暑い時期は農業がひと段落した時期です、稲の育成に影響がある時期です、体力が落ちる時期でもあります、食物が腐り食中毒となる

時期でもあります。いろいろ考えられませんが此の時期の祭りは、病氣や災害をもたらす悪い霊を追い払うという意味から始まったといわれます。昔は今ほど薬や食生活、住居環境がよくありませんでした。特に、梅雨から夏にかけて、病氣が大流行する時期だったのです。今のよう医学が発展していなかったため、当時は病氣を広めるのは悪い霊だと考えられていたのです。神山神社の「たたきまつり」では神様が乗ったお神輿をかついで町中を歩き、神様に町を清めてもらおうとしたことが由来だと謂われ、悪い霊は賑やかなものに付くことからお囃子を入れるようになったとも謂われます。

そうなると此の福岡区は昔、病氣・災害が大流行した事となります。福岡町史に

【江戸時代を通じて、農民がもつとも怖れたのは自然災害そのものであった。稀にみる天変地異はいうに及ばず、飢饉・疫病とのたたかいである。近世三百年に亘る永い歲月の間には、冷害・風水害・干魃・長雨・病虫害などの自然災害によって、忽ち農作物が不作になり凶作へと至るのであった。しかもこの飢饉の発生には、為政者の政治経済のしくみの不備や、交通の支障によってその災害が増大されること極めて頻繁の有様であった。江戸時代の全国的な大飢饉は、享保・天明・天保の三

大飢饉とされる。これらの飢饉をはじめ大小の飢饉は、その多くは冷害による凶作が直接の原因であった。享保年間からの高山村庄屋見聞日記にも、宝暦一二年(一七六一)「四月十七日、田瀬村あられ降り申候、大栗ほどつづ有之」と記し、また明和四年(一六七六)「四月七日の夜の霜、八日の朝殊の外当り、下切・向知原・木積沢・蛭川之内いしきなど、麦の穂出不申、草麦にて刈り取……困窮仕り申者御座候」とあって、たびたびの飢饉に村人は、粟・栗・山午莠・りようぶ・ぜんまい・わらびなどを採り、寒中には蕨の根まで掘って食べた。

寛永の飢饉につき隣町『付知町史』は、「寛永一八年(一七六七)は、早魃が続いて水稻など收穫皆無、秋には例年より早く大雪が降り、大地は凍み抜いて竹木まで枯れ、鳥獣も痩せ疲れて飢え死にし、鹿の皮も紙のように薄くなった。翌一九年は全国的な飢饉になり、村人は藜わら・葛葉の類まで食糧にして露命をつなごうとしたがその甲斐なく、餓死した者は加子母村七〇〇余人・付知村九〇余人・田瀬村五〇余人、その他、牛馬等の家畜・山野の鳥獣など屍(しかばね)となって川原に押し出され、飛び石のように散乱し、まさに生き地獄の様相であった」と述べてい

る。】とあります。この事から判るよう
にこの地方の夏の祭りはこのような理
由により行われてきたと考えられます。

■ 幽光御神灯祭

八月十五日に小雨の中、執り行いました。
今年もミニコンサートを開き、ろうそく
の灯りの中、幻想的な雰囲気にもまれ多
くの方の憩いの場となりました。

■ これからの祭り

九月二十一日 祖霊舎御霊祭り

十四時より神職のみで齋行し
ます

十一月四日(日) 七五三祭り

十一月十日(土) 七五三祭り

申し込みは新聞折込チラシ

又はホームページ参照

問合せ先 宮司 深谷耕平

☎0573 - 72 - 2892

十一月二十二日(金) 秋祭り

十四時より神事

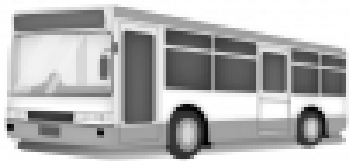
今年から巫女舞を奉納します

甘酒・餅投げもありますので

お越しください

■ 宝物 吉則

前号で紹介させて頂きました、榊山神社
の宝物の太刀吉則を現在、京都国立博物
館主催の「国宝刀剣展覧会」に出品して
ます。期間は九月二十九日～十一月二十
五日です。京の刀鍛冶が作刀した国宝級
の刀剣類二百振り展示されますが、榊山
神社の太刀は南北朝～室町時代に作刀さ
れている関係で非常に重要かつ希少価値
の高い京の太刀と認識されています。展
示を祝い、榊山神社では氏子の研修旅行
を企画し、十月八日～九日、京都国立博
物館を見学してまいります。



■ 建設委員会よりお礼と今後の活動

昨年より報告させて頂いております、社務所建設の資金集めであります
が、各町内会にお願いしておりました協力金につきまして無事取りまとめ
ることが出来ましたのでご報告させて頂きます。資金調達予定金額三千
八百万円の内三千万円を協力金としてお願い致しましたところ二千九百
万円地区協力金として目処がつかしました。ご協力大変ありがとうございました。
残り九百万円をこれから集めることとなりますが町内会での報告や前
号の神社だよりにて報告させて頂いております個人・団体の奉賛金(寄付)に
頼る事となりますのでご承知の程、宜しくお願い申し上げます。まだ公表
はしておりませんが、既に一部団体・個人の方からの寄付を頂いております。
建設委員会・氏子総代会の両活動として今年の年末から調査を始め、
来年二月頃より徐々に寄付を募りたいと思っておりますので、神社の社務所建
設の資金集めに、ご協力をお願い申し上げます。

あらためて社務所建設理由について記述させて頂きます。

- 昭和九年に現在の社務所が建てられ八十五年と歳月が経っており耐震化も
されておらず、近い内に利用できなくなる。
- 神社の建物で氏子会館内に永代供養が出来る祖霊舎があり、三十世帯安置で
きるのですが既に二十五世帯利用しており拡充を必要とします、新設される
社務所に祖霊舎を拡充移転先とする
- 新たな社務所にて祖霊舎の御霊祭り、各種神事(安産祈願、初宮詣、厄祓い、
車祓い、結婚式等)の開催、イベント等の執り行いを容易にする。
- 参拝者の為、地元民の交流の為の休憩所がないので社務所前に休憩できる場
所を設けた施設にする。